

令和4年度 学 校 評 価 報 告

草加市立栄中学校
(令和5年2月22日作成)

| | |
|---|--|
| 1 学校教育目標 | |
| ○校訓 「自主」「自律」「親和」「協力」 ○学校教育目標 ・自ら学び考え、行動する生徒 ・豊かな心を持ち、思いやりのある生徒 ・健康で、たくましい生徒 ○目指す学校像 ○一人一人がかけがえのない存在として大切にされる学校 ○人権や生命が尊重されお互いを認め合う「いいところ探し」の学校 ○生徒が「通いたい」保護者・地域が「通わせたい」学校 | |
| 2 重点目標・努力目標 | 3 前年度の成果と課題 |
| ○幼保小中一貫教育の推進 ○地域と共にある学校づくりの推進 ○学年・学級経営の充実 ○学習指導の充実 ○豊かな心を育む指導の充実 ○積極的な生徒指導・教育相談の推進 ○健康な体づくりの推進 ○特別支援教育の推進 | 成果 ○「草加っ子の学びを支える授業の5か条」を意識するとともに、配備されたタブレット・大型ディスプレイを積極的に活用した授業を実施することができた。 課題 ●自己肯定感・有用感を高める教育活動を推進するため、小中での発達段階に応じた取組を意識的に実施する。 |

| 4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である] | | | | |
|--|-------------------|--|----|--|
| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 | 評価 | 成果と課題 ○成果 ●課題 |
| I 学校運営に関するもの | ①組織運営 | <ul style="list-style-type: none"> 学校経営目標、方針 校務分掌組織 適所への適材配置 職員会議等の運営 予算の執行・決算、監査等 | A | ○学校経営方針のもと、全教職員が組織的に連携し、学校運営をしていくことができた。 ●校務分掌組織を見直し、より適所への適材配置を図っていく。 |
| | ②研究・研修 | <ul style="list-style-type: none"> 研究組織、計画、実施 校内研修の推進 授業改善への取組 校外研修会への参加 人材育成 | A | ○ICT、道徳、人権、倫理確立、救命救急など様々なテーマで校内研修を実施することができた。 ●幼保小中一貫教育の研究発表を見据えた研究組織の確立を行う。 |
| | ③保健管理・安全管理 | <ul style="list-style-type: none"> 保健計画、安全計画 環境衛生の管理 健康観察、安全点検 緊急事態発生時の対応 危機管理マニュアルの作成・活用 | A | ○年間を通じた安全点検を行い、3回の避難訓練、引き渡し訓練、スクアードストレイト、いのちの学習を実施した。 ●避難経路の見直しを図る。 ●いのちの学習の時間数の見直し。 |
| | ④情報管理・施設設備管理 | <ul style="list-style-type: none"> 個人情報の管理、保護 施設設備の管理と有効利用 | A | ○校内規定による情報管理を実施できた。 ○老朽化に伴う破損について、迅速な対応を行うことができた。 ●不具合の生じている箇所の修繕をより迅速に行っていく。 |
| | ⑤地域との連携 開かれた学校 | <ul style="list-style-type: none"> 学校情報の発信 学校公開の実施 学校運営協議会の推進 地域、校種間連携 PTA活動の活性化 | B | ○定期的なホームページの更新により情報の発信を行うことができた。 ○学校運営協議会を予定通り実施できた。 ●感染症対策のため、学校行事以外での学校公開を実施することができなかった。 |
| | ⑥幼保小中を一貫した教育 | <ul style="list-style-type: none"> 目指す子ども像の共有 15年間を通じたカリキュラムの編成 一貫教育推進のための組織づくり | B | ○幼保小中一貫教育推進委員会・部長会を実施し、連携を深めた。特に読書活動について組織的に実施することができた。 ●児童・生徒の直接の交流は制限があり困難であった。 |

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 | 評価 | 成果と課題 ○成果 ●課題 |
|------------------|-----------------|--|----|--|
| II 教育活動に関するもの | ①教育目標・教育計画 | <ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 | B | <p>○配付物、連絡メールシステム、学校行事の機会を活用し、目標や方針の周知を行うことができた。</p> <p>●授業参観がなく、保護者との懇談も限られていたため、機会を増やしていく。</p> |
| | ②教科指導 | <ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 | B | <p>○自己肯定感・有用感を高める教育活動を学力向上プランに位置づけ、実践を行った。</p> <p>●外部人材の活用ができていないので、活用を図っていく。</p> |
| | ③道徳教育 | <ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 | A | <p>○ローテーション制で行い、全教職員の授業力向上につなげることができた。</p> <p>○発達段階に応じた命の教育を実施した。</p> <p>●評価の在り方についてより一層の充実を図る。</p> |
| | ④特別活動 | <ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 生徒会活動 | B | <p>○昨年度よりも行動に制限が少なく、方法を工夫した実践を行うことができた。</p> <p>●学級の問題点や課題などを話し合う学級会の機会を増やす。</p> |
| | ⑤「総合的な学習の時間」の指導 | <ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 | B | <p>○昨年度は全く活動できなかった活動も多少の制限はあったが実施することができた。</p> <p>●年間計画をより実態に即したのに見直し、学びが深まるようにしていく。</p> |
| | ⑥生徒指導 | <ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、生徒理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 | A | <p>○生徒指導上の問題に組織的に対応することができた。</p> <p>●不登校や支援を必要とする生徒が増加しており、組織的対応をさらに推進していく。</p> |
| | ⑦キャリア教育 | <ul style="list-style-type: none"> 組織的なキャリア教育 指導方法の工夫と改善 啓発的経験の充実 進路情報の収集・活用 職場体験活動 | B | <p>○社会体験活動などの体験型の進路学習に代わる取組を各学年で工夫して実施した。</p> <p>●進路情報に関して全学年の生徒・保護者に情報発信する方法について検討していく。</p> |
| | ⑧特別支援教育 | <ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 | A | <p>○学校全体で情報を共有しながら支援を行うことができた。</p> <p>●個々の生徒への支援を漏らさず実施できるよう、支援体制の一層の充実を図る。</p> |
| | ⑨学校図書館教育 | <ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 | B | <p>○司書教諭と学校司書の連携により、学校図書館の充実した整備が推進された。</p> <p>●感染症対策のため、利用日数に制限を設けなければならない。</p> |
| | ⑩情報教育 | <ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 | B | <p>○タブレット・大型ディスプレイを積極的に活用した授業を実施することができた。</p> <p>●タブレットの接続状況が悪く、複数の学級で同時にタブレットを活用した授業を行うことが困難であった。</p> |
| | ⑪人権教育 | <ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 | A | <p>○人権作文、人権標語の取組、「ヒドゥンカリキュラム」の研修の実施ができた。</p> <p>●学校現場における人権意識の向上、人権意識のアップデートについてさらに研修を実施する。</p> |

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 | 評価 | 成果と課題 ○成果 ●課題 |
|----------------|---------------------|--|----|---|
| Ⅲ 特色ある学校づくり | ①地域に開かれた学校づくり | ・外部人材の活用 ・保護者との連携 ・関係諸機関との連携 | B | ○学校運営協議会を実施し、地域の声を直接聞くことができた。ホームページの定期的な更新により情報の発信もできた。 ●感染症対策のため、保護者との連携の機会が少なかった。 |
| | ②幼保小中一貫教育 | ・15年間の系統的教育の実施 ・異校種間交流の推進 | B | ○幼保小中一貫教育推進委員会や部長会の実施により、一貫教育の推進を図ることができた。読書活動については発表を行った。 ●行動の制限があり、児童生徒が直接交流する機会が少なかった。 |
| | ③自己肯定感・有用感を高める教育の推進 | ・授業等での計画的な実施 ・互いを認めあうことのできる学級づくり、諸活動の推進 | B | ○生徒の自己評価では、ほぼすべての項目で肯定的回答が90%を超えている。 ○自己肯定感・有用感を高める教育活動を各教科学力向上プランに位置づけた。 ●より一層、小中一貫で教育活動を推進していく。 |

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

○感染症対策で行動が制限される中でも、昨年度より充実した学校行事を実施することができた。

○「草加っ子の学びを支える授業の5か条」を意識し、各教科で工夫をした授業を実施することができた。

○タブレット端末・大型ディスプレイを積極的に活用した授業を実施することができた。

○月に1回のいじめ防止対策委員会を実施し、いじめの認知から対応、見届けまで組織的に対応することができた。

○不登校対策について、相談室と別室の利用について共通理解を図るための教育相談マニュアルを完成させた。

○二者面談を学期ごとに計画的に実施し、生徒の抱える悩みや不安等を聞き取り、教育相談に活用した。

○道徳については教職員全員が参加し、外部からの講師を招いての授業研究会を実施することができた。

●学校評価でも評価が低いあいさつについて、自ら進んであいさつできる生徒の育成に取り組んでいく必要がある。

6 次年度の改善策

●行動が制限されている中でも、より充実した学校行事を実施することができるように、実施方法の見直し、検討を行っていく。

●校内研修の機会を活用し、各教科での効果的な実践を共有し、授業力向上を図っていく。

●不登校や支援を必要とする生徒が増加し、学級担任の負担が大きいため、より組織的な対策を検討する。

●教育相談における教職員の基本スキル向上のための研修の実施。

●学校の取組についてホームページをはじめとして、多くの場面で発信を行い、教育活動に対する地域の理解をより得られるようにしていく。

●幼保小中一貫教育の取組をより一層推進するために、研究組織の見直しを行っていく。

●家庭学習の取組が課題であったが、今年度改善されたため、取組が継続されていくように、学校全体で足並みをそろえて指導をしていく。